

りんどう

リブインさくら
広報紙第27号

流しそめん

七夕飾りを吊るして、織姫様と彦星様が出会えるようにと、てるてる坊主を作って、天の川を探して夜空を眺めたものです。

七夕飾り、生活をしていく中で、だんだんと空を見上げることが少なくなりましたが、このように行事を行うと、日本の伝統行事の良さを感じます。

今年も行事は『うなぎ』や、『デザートには『メロン』と豪華な食材が並びました。そして『恒例！流しそめん』流れてくるそめんを取るさまの皆様の真剣な顔……とても印象深いものでした。行事食に流しそめん、たくさん召し上がられ、この日は皆様、夕食があまりお腹に入らなかったようです。(笑)

どんな行事でも言えることですが、行事食などのイベント時の皆様の顔はとても素敵で、いきいきとしています。短冊に願いを書かれていた時にも、皆様がそれぞれの思いが伝わってきました。

入居者の皆様がお元気で楽しく、充実した日々を送れるよう、願います。



西新井大師



寒さも和らぎ、過ごしやすくなった5月、複数日に分けて少人数で『西新井大師』に行ってきました。

季節 節から天候にバラつきがあり暖かい日、涼しい日と様々でしたが、雨天にだけはならずに出出を楽しむことができました。

西 新井大師の本堂をお参りしたあと、境内を散策。足立区では有名な、お大師様の藤の花は残念ながら見頃は過ぎていましたが、池の鯉を見たり、風に泳ぐ大きな鯉のぼりを眺めてみたり……

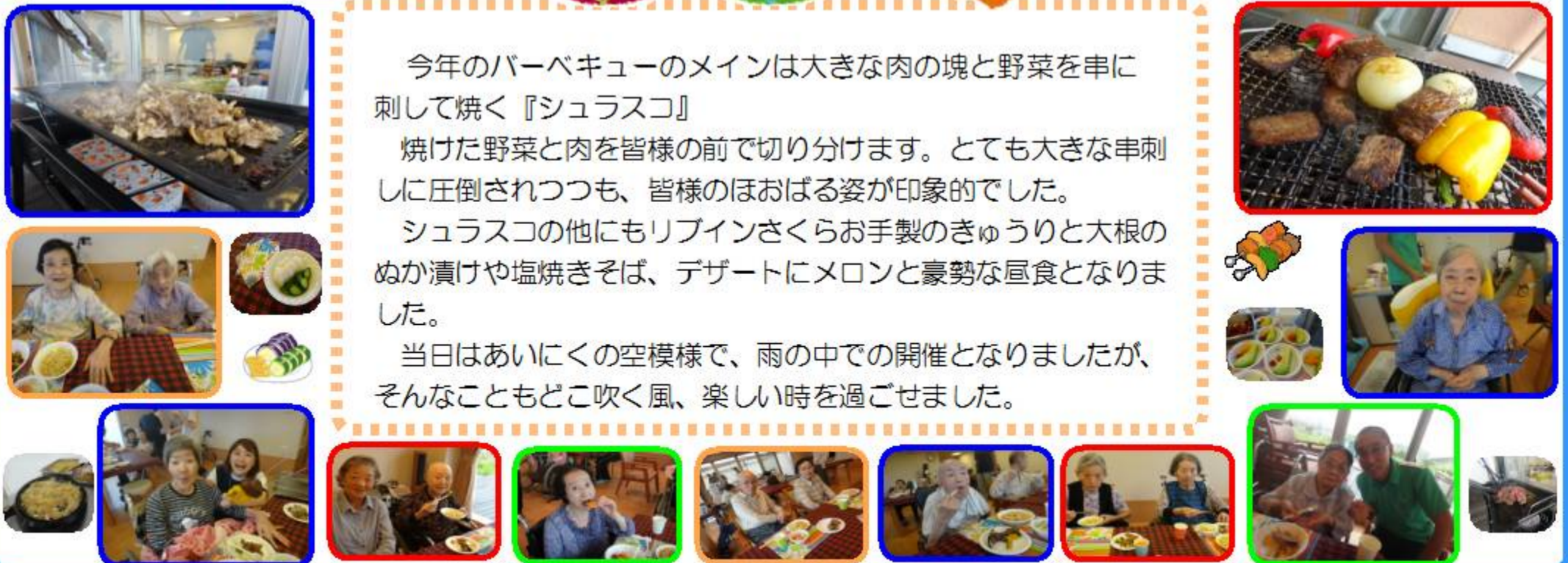
境 内から続く参道も散策しました。昔からある中田屋さん、清水屋さんなどの店頭で試食を勧められると皆様、嬉しそうにお団子を受け取り「昔と変わらぬ美味しいね。」と店員さんとの会話も楽しめました。

参 道ではお土産を購入した方もいらつしやう、それぞれ楽しまれていました。幸い、あまり混雑していませんでしたので、ゆっくりと見て回ることができました。昔から馴染みのあるお大師様の思い出を話して下さった方も多くいらつしやう、移動の車内では「お大師さんは〇〇だよね。」「そうそう〇〇なんだよ。」といった具合に「西新井大師あるある」で盛り上がりました。

それぞれ昔を懐かしむと共に外出による気分転換ができ、喜んでいただけたようです。



今年のバーベキューのメインは大きな肉の塊と野菜を串に刺して焼く『シュラスコ』
焼けた野菜と肉を皆様の前で切り分けます。とても大きな串刺しに圧倒されつつも、皆様のほおばる姿が印象的でした。
シュラスコの他にもリブインさくらお手製のきゅうりと大根のぬか漬や塩焼きそば、デザートにメロンと豪華な昼食となりました。
当日はあいにくの空模様で、雨の中での開催となりましたが、そんなこともどこ吹く風、楽しい時を過ごせました。



リブインさくら



こころは、今回のリブインさくらエッセイを担当します。小泉仁悟です。

何を書けばいいのか悩んでいると、周りの職員から、旅行先で夫婦ゲンカをして警察を呼ばれた話をしてみたら？と勧められましたが「お家の恥さらし」になるので、別の話をしたいと思います。

今年にはリオでオリンピックが開かれるということで、開催国の「ブラジル」の話をしてみたいと思います。ちょうど10年くらい前に、サンパウロ州にある日系農場に半年間お世話になる機会がありました。

百 年近く前に多くの日本人が「夢の開拓地」としてブラジルの地を目指し、今日まで移民として生活してきました。しかし、開拓に至るまでの道のりは決して平坦ではなく、毎日が砂を噛むような地獄の日々だったそうです。そんな先人達の苦労が実り、現在の地位を確立しました。

日本は次回で2回目のオリンピックが開催されますが、彼ら「日本人」にとっては「母国」で初めての開催であり、非常に感慨深い大会だと言えるでしょう。

さて、そんな話に水を差すようですが、ブラジルの国民性は良い意味では「ゆったりしている」「悪い意味では「かなりの時間にルーズ」という側面があります。

前回のサッカーワールドカップの時は、スタジアムが未完成のまま開催されたというケースがあります。また、治安の面では、リオ警察の警官の目の前で、ひったくりにあった女性が「あんた今見てたでしょ？何で何もしないのよ」と抗議したところ「すみません。何も気づきませんでした」という笑えない冗談もあるくらい強盗が多発しています。日本ではありえないことですが、確実に彼らの不安要素であることは間違いありません。

そんな中でも、いい話もあります。非常に家族を大切にするといい点です。これも笑い話になってしまいますが「最近近くに刑務所が出来たので、治安が悪くなった」と言う話を聞き、理由を聞くと「頻りに面会に行く為に、近くに家族で引っ越してくる。しかし仕事が無い。犯罪に走る。治安が悪くなる」と冗談ではなく本当にこんなことが繰り返されています。

愛情深く、人懐っこい。陽気で家族を愛する。しかしどこかピントがずれている。こんな不器用な彼等が初めて挑むオリンピックという大イベント。私は非常に楽しみます。



思い出の扉

現在、リブインさくらにご入居されているA様。定年後、暫くしてから始められたというワープロで、生からの思い出を書き綴られているというお話しを伺いました。その思い出を、このりんどうでご紹介したく、ご依頼をしたところ、快く承諾をいただきましたので、抜粋してご紹介させていただきます。

新学期 会社は学校 設立し

我ら若者 一年生に

昭和11年10月1日、会社は前々から進めていた独自の学校を設立し、文部省の認可を得て開校した。名称はスタンダード製靴学校と称した。

生徒はとりあえず、従業員の中で二十歳以下の男子を対象に、1年生に組み込まれる。我々もその対象となり、上司から『お前、子飼いかいからいので生徒になれ』と言われたが、区立学校に通っているのと断ると区立の方を断れと言われる。企業優先であり、区立学校はあと1年半で卒業となるが、やむなく退学届を出し、会社の学校に転校した。

区立の学友とも別れ、ハーモニカも聞けなくなり、惜しい事であった。会社の学校は工業科であり、いままでの学校とは科目内容がガブリと変わり初めからの出直しとなる。

上司より ラップ習えと 指示されて

仲間と共に 毎日練習

昭和13年、正月も過ぎ、人員が増え、生産も徐々に上がる。毎日の残業で収入も増えてきて、小遣いも多少増えた。以前からハーモニカを習いたいと思っていたので、ハーモニカを買い、独学であるが習いはじめたところ、上司より、ラップを習えと指示され、逆らうこともできず、ラップを習うことにした。ようやく手に入れたハーモニカは机の引き出しに入れっぱなしとなり、ハーモニカは諦める。

3月上旬より夕食後、上司の指導で若者8人が練習に入る。まず、吹いてみるが音が出ない。そのうちに唇が爛れ痛くなるがそれでも練習は休ませてもらえない。痛さを耐えて練習を続ける。爛れた唇も治りかかってきた頃に音がでてきた。陽気が良くなる5月になると、吹くだけで音がでる。陸軍行進曲『その一』と『その二』を吹けるようになる。6か月間習い、秋には一応、ひととおりを習い終わり、後は自分たちだけの練習となる。その後、必要に応じて色々な行事や出征兵士の見送りなどに呼び出された。

料理クラブ



料理クラブでは毎月、夕食の1品とおやつ作りを開催しています。力を合わせて作ったお料理やおやつは、ちょっと失敗してしまっても、美味しく思い出に残ります。



11月の収穫&11月



編集後記

暑い！もうすぐ夏本番！梅雨明けと共に訪れる猛暑に耐える日々が待っています。

暑 い！もうすぐ夏本番！梅雨明けと共に訪れる猛暑に耐える日々が待っています。

水 分摂取・塩分摂取・休憩・睡眠・冷却グッズ・・・色々対策はありますがバ

雨 と言えは気になることがひとつ、先月からニュースになっ

雨が下がっているという。りんどう発行日には水位が回復していることを願っています。

